

新型コロナウイルスと共存する「新しい日常」における認知症サポート医研修のあり方を検討するための調査研究事業（概要）

### 【目的】

新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、研修のあり方について検討を行い、オンライン研修を含めた新たな研修体制の構築を試み、試行を行い、実施可能性や有効性を検証する。

### 【方法】

- ① 研修のあり方の検討：委員会を組織し、現行の研修体制の問題点、改定すべき点につき検討を行う。
- ② オンライン研修を含めた新たな研修体制の構築を試みる。
- ③ 試行を行い、実施可能性や有効性を検証する。

### 【結果および考察】

- ① 認知症サポート医養成研修のあり方につき検討を行い、今年度は会場での研修は行わず、オンライン研修システムを構築し、研修を開催すること。研修はWeb上でオンデマンドで行う講義編とオンラインでライブで行うグループワークの二部構成とした。
- ② eラーニングシステムを構築し、オンラインでの研修を実施し、213名が研修を修了した。
- ③ 研修受講者を対象としたアンケート調査を実施した。一般病院に所属する医師が無床診療所の先生を超え、診療科では内科や外科の先生が増え、精神科・脳神経外科・神経内科の先生は減った。また、受講目的では認知症初期集中支援チームへの協力と認知症ケア加算対象の院内チーム設置を目的とする受講が増加していた。自治体、地域医師会、所属医療機関からの要請を受けた受講が増加しており、費用負担も自治体と地域医師会が増えており、自費による受講は減少していた。
- ④ 講義編に関しては、時間・場所を問わずに受講できる、途中で中断ができる、繰り返し視聴できる、移動の手間や費用が不要といった利便性を高く評価する意見が多くみられた。
- ⑤ グループワークに関しては、特に問題はなかった、スムーズに参加できたなどの評価が多かった。その一方で、接続が難しかった、音声途切れがちであったなどの意見や、オンラインでは参加者の表情が読み取りにくく、自由な議論がしにくい対面して行う方が良いとのご意見も少なくなかった。オンラインでのグループワークは会場で行う場合と比べて大人数で行うことはできないが、グループ数が少ないこともあり、全てのグループに発表してもらうことができるため、全受講者が最後のまとめにも参加した形となり、満足感に違いも出てくるのではないかと思われた。